

【香港国際ドラゴンボート大会 報告書】

この度、6/15~6/16に開催された香港国際ドラゴンボート大会に参加させていただきました。22名分の宿泊費やホテルでの食費等を補助していただけるという高待遇で参加させていただき感謝申し上げます。また海外のハイレベルなチームと鏝を削るレースを経て貴重な経験ができ、大変充実した期間を過ごすことができました。以下、今大会の所感やレースの振り返りを記載させていただきます。

【参加者】

緒方、安田、近藤、明、林、尾寅、竹谷、井上、岡本、岩松、緑川、岡安、瀬並、江田、渡邊、吉見、熊谷、阿久根、宮原、小島、岩井、北川、疋田、片岡

【参加カテゴリー】

International Mixed Championship

International Mixed Grand Championship

【レースの目標/結果と各レースの振り返り】

事前に決めた目標は以下の通りです。

- ①目標タイム：2分切り(昨年ベストタイムは2分9秒)
- ②International Mixed Championship(Day1)：決勝8位以上(昨年は9位)
- ③International Mixed Grand Championship(Day2)：決勝進出(昨年は準決勝4位で敗退)

結果として、①②は残念ながら達成できませんでしたが、③は達成することができました。

Day1

予選

順位	チーム名	タイム
1位	中國澳門代表隊	02:06.1
2位	PHILIPPINE DRAGON BOAT FEDERATION (PDBF)	02:06.6
3位	Singapore National Dragon Boat	02:06.6
4位	Hooksports	02:12.6
5位	Tokyo Dragon Boat Club	02:15.2
6位	Spanish Dragons SD	02:20.7
7位	Fremantle Swan Dragon Boat Club 西澳費曼爾圖天鵝龍舟俱樂部	02:30.3
8位	Rogue Malaya Dragon Boat Team	DNS

1日目の予選結果によって2日目のレースに参加できるかどうか決まるという状況の中レースに挑みました。

スタートは1パドル目が弱く艇が動いていませんでした。事前にスタ練ができなかったこともあると思いますが、より集中して1パドル目から爆発的な動き出しを作る必要があると感じました。

ミドルのピッチは遅すぎず早すぎずでしたが、いつもの静水に比べ、うねりの影響でキャッチの精度/インパクトが弱く1パドルごとに伸びやかな漕ぎを作ることができていませんでした。

全体を通して想像以上の波やうねりがあったかと思います。その中でキャッチやストロークの精度が下がってしまったと考えられます。

結果的には予選5位のタイム順で準決勝に進むことができました。

準決勝

順位	チーム名	タイム
1位	广东宜奥集团龙舟队	02:15.1
2位	中國澳門代表隊	02:24.4
3位	Singapore National Dragon Boat	02:26.5
4位	东莞洪梅龙舟队	02:27.0
5位	Tokyo Dragon Boat Club	02:32.0
6位	南开大学龙舟队	02:39.2
7位	Merdeka Paddlers	02:49.5
8位	Hong Kong Japanese Dragon Boat Club	02:59.9
9位	Desert Dragons Abu Dhabi	03:02.9

準決勝では暴風雨の影響でスタートラインに並べるのが困難な状況でした。雨風がひどくなったため一度船台に戻り、天気が好転したところで再度スタートラインに向かうことになり、高い集中力を保つのが難しかった印象です。練習や国内大会の場面でも環境によって集中力を削がれかねない場面が多々あるかと思いますが、海外の競合チームはそのような場面での集中力も素晴らしいものがあり、見習うべきであると感じました。

レースパフォーマンスとしては出し切れた印象でしたが、準決勝2レース目の環境が1レース目に比べてはるかに良く、不運ながらタイム差で準決勝敗退となりました。

Day2

予選

順位	チーム名	タイム
1位	广东宜奥集团龙舟队(Int Mixed)	02:06.1
2位	Singapore National Dragon Boat (Int Mixed)	02:11.9
3位	Tokyo Dragon Boat Club (Int Mixed)	02:17.4
4位	宇宙燭業聯漁龍 / Universal Candle United Fishery Dragon Boat Team(Mixed)	02:21.6
5位	Merdeka Paddlers(Int Mixed)	02:22.4
6位	火井火鍋 Fire Well Hot Pot and Seafood Restaurant(Mixed)	02:24.2
7位	Buzz Dragon(Mixed)	02:24.6
8位	沙田浸信會 Shatin Baptist Church(Mixed)	02:26.6

大会1日目の予選でLocalチームとInternationalチームの上位32チームが参加できる大会2日目。

初日の反省点を生かし、初めて満足のいくレースができたと感じました。環境の面もありますが、クルー全員がある程度会場の波に慣れてきたことや、先頭でのピッチコントロールが掴めてきたことが考えられます。

5位以上+残りタイム順4チームが準決勝に進めるところを、予選3位という余裕を持った結果で準決勝に進むことができました。

準決勝

順位	チーム名	タイム
1位	中國澳門代表隊 (Int Mixed)	02:09.7
2位	东莞洪梅龙舟队 (Int Mixed)	02:10.8
3位	Tokyo Dragon Boat Club (Int Mixed)	02:13.6
4位	Royal Hong Kong Yacht Club(Mixed)	02:16.2
5位	火井火鍋 Fire Well Hot Pot and Seafood Restaurant(Mixed)	02:17.3
6位	輕鬆工程聯青龍(Mixed)	02:17.7
7位	飛昇龍(Mixed)	02:18.2
8位	海能達尖峰龍舟隊 Hytera Dragon Boat Team(Mixed)	02:26.0
9位	榮利集團健龍社(Mixed)	02:26.7

上位3以上が決勝に進むことができるというレースでした。昨年はこの準決勝で4位敗退という結果でしたのでなんとしてでも決勝に進みたいと考えていました。そのためここまでのレースとは桁違いの緊張感を感じていました。事前のアップも普段のものに加え、腿上げ等でしっかり脈拍を上げて準備を行いました。

予選タイム上は3位争いをするチームは我々を含めて3チームいたので激戦が予想されましたが、レースが始まるとこ一番の集中力を発揮することができ、終始3位をキープすることができました。結果としては4位に2.6秒ほどの差をつけて決勝進出を決めました。

決勝

順位	チーム名	タイム
1位	广东宜奥集团龙舟队(Int Mixed)	02:05.7
2位	新会泓达堂陈皮龙舟队 (Int Mixed)	02:08.9
3位	东莞洪梅龙舟队 (Int Mixed)	02:12.2
4位	Singapore National Dragon Boat (Int Mixed)	02:14.2
5位	PHILIPPINE DRAGON BOAT FEDERATION (PDBF) (Int Mixed)	02:14.5
6位	中國澳門代表隊 (Int Mixed)	02:15.6
7位	宇宙燭業聯漁龍 / Universal Candle United Fishery Dragon Boat Team(Mixed)	02:17.2
8位	Tokyo Dragon Boat Club (Int Mixed)	02:23.9
9位	香港中文大學龍舟隊(Mixed)	02:24.4

この時点で③の目標は達成できていましたが、より良いタイム、そして賞金を獲得するために今一度兎の緒を締め直しました。ただ、いざレースが始まってみると、さすがアジア最強のチームが勢揃いしていることもあって、ほとんど歯が立ちませんでした。結果は8位で、7位からも6秒以上の差をつけられてしまいました。

この結果を真摯に受け止め、更なるレベルアップをするために日々精進していきたいと考えています。

【全体所感】

今回の香港大会で感じた課題点をいくつか挙げさせていただきます。

①スタート時の集中

どのタイミングでスタートが来ても最高出力で反応できるように、艇を並べたら自分の身体と艇のつながりに集中しておくことが大切であると再認識しました。今回で言うと強風で艇コントロールが必要な場合においても、いつスターコールがかかってもスタートが切れるような集中力を維持しておくことが重要であると考えます。

②スタートのピッチ

レース(特に500m以下の短~中距離のレース)ではスタートで前に出ることができるかどうか勝敗の大きな分かれ目であると考えています。そういった中で満足行くスタートが切れないことは致命的となります。今回は初日の予選では思うようにスタートピッチ上げていくことができませんでした。うねり等の影響も考えられますが、そういったものに流されないように先頭でピッチコントロールすることが大切であると気付かされました。

●ミドルのテクニク

日本国内大会では香港大会ほど大きな波を感じるレースはほとんどありませんが、艇の揺れをそのまま体の揺れにしているようではキャッチをコントロールできないとも言えないと思います。実際、混合やオープンの上位入賞チームの漕ぎを見ていると、まるで波のない会場でレースをしているかのような強靱な漕ぎをしていたことが印象的でした。日本チームは静水の時よりも体の動きが小さくなっている選手が多いように見受けられたので、もっと腹筋や下半身でしっかり体を固定して大きく漕ぐことが必要

であると感じました。

最後に、本大会に関わってくださったJDBAの役員の皆様、遠征を支えてくださったチームマネージャー/サポートメンバーの方々、そしてともにレースを戦ってくださったチームメンバーの皆様にご感謝申し上げます。

以上です。